

春  
夏  
秋  
冬

1

# 四季のコンサートだより

1985年9月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 浜松市鴨江3-45-13

電話連絡 74-2273 (村田)

ごあいさつ

スタッフ代表 佐藤安子



「ふれあい音楽会」四季のコンサートも二年目の半ばを迎えることができました。これまで夢中で演奏会の準備・運営に追われておりましたが、ここで反省の意味も含め皆さまとの連帯感を増すため、会報を出す運びとなりました。

多くの方からの御感想をお寄せいただきありがとうございます。当初は夢のように思っておりました演奏会が、次々と実現していくことに一同驚いております。これもいたらない私達スタッフを暖かく見守って下さる会員の皆さま方のお陰と感謝致しております。今後共この会が充実発展し、そして何よりも継続していくよう努力して行く所存でございます。どうぞ忌憚のない御意見・御要望をお願い申し上げます。

## 音楽の街

平山博三夫人 平山咲子

大正13年の春上京して、大学の寮に入った私は、浜松の出身だというたびに「浜松は音楽の盛んなところでしょう。いいですね」と云われました。浜松が音楽の盛んなところという理由は、楽器を造る大会社があるからなのでしょう。「どこのお宅にもオルガンがあるんですって？」などとしばしば云われました。実際、その頃でも女学校へ行く娘がある家庭では、ペビーオルガンぐらいは持っている家が多かったようです。私の家にも叔母が市立高女時代に買ったペビーオルガンが玄関においてあり、小学校にも入らない頃から、片手で弾いたりしていました。大正年間の浜松市立高女では、練習用のペビーオルガンが数台あって、四年生の希望者には音楽の先生が指導して下さっていました。私の家では姉妹弟みんな音楽が好きで、みんなオルガンを弾き、歌うこともよくしました。弟がなかなか上手で「美しき天然」を弾くとコチというご近所の犬が一緒になって楽しそうに歌うように声を合わせたりしました。浜松は何といっても山葉オルガンの製造地ですから、そのオルガンを持っている家は、たしかに他都市よりは多かったと思いますが、「楽器の街でしょう。」と云われた記憶はありません。当時の市立高女の音楽教育の程度は高かったようで、上京して寮でそれを強く感じたものです。

現在とちがって音楽を聴く機会はとても少なかったのですが、音楽会があれば女学生は聴きに行くのが当然のように考えられていて三浦環女史の「蝶々夫人」も、新婦朝の藤原芳江氏の「この道」「からたちの花」などもそして伊達三郎氏のチェロと、みんな浜松で女学生の頃聴きました。現在とは大分異った感覚で一般が音楽に接していたし、幼い頃からの関わり方が、少々大きさに云えば教養として肌にしみ込んでいるというようなものに思います。五十年近くも浜松を離れていた私が、帰って聞いた言葉に「浜松は楽器の街」というのがあり、びっくりしました。楽器製造の大会社が二つもあり、一般家庭にあるピアノ、エレクトーンの数も、大正年間のペビーオルガンの比ではないでしょう。しかし、十数年も前から浜響を初め、多くのグループ、合唱団も盛んな活動をしていますし、とりわけ「音楽友の会」の運動は有意義なものと思います。創立当初からお話をうかがい、大賛成で微力のきわみ乍ら、気持一杯に応援したいと思ってまいりました。お一人お一人が立派にリタイサルを持てる程の力量をお持ちの、堂々たる方々が、身を挺して取り組まれた成果が見えて来たご様子で、心からお喜び申し上げます。何よりも嬉しく思いますのは、演奏会に行ってみてその聴衆の殆んどが青少年で、しかも圧倒的に女性の多いこと、三、四十年代の婦人が溢れていることでした。これは、近い将来、浜松が益々「音楽の街」になる期待を抱かせることであり、クラシックを聴く人口が多くなるきっかけを作った音楽友の会の企ては、高く評価されてよいことであると信じます。

1985年	秋のコンサート	ミシェル・ペロフ ピアノリサイタル	10月25日(金) PM 7:00	市民会館大ホール
◆	冬のコンサート	東京カンマーアカデミー	12月12日(木) PM 6:30	◆
1986年	春のコンサート	花房晴美ピアノリサイタル	3月22日(土) PM 6:30	◆
◆	夏のコンサート	黒沼ユリ子 (VI) ・堤 剛 (Vc) ・関 晴子 (pf) トリオの夕べ (日本では初のトリオ実現!)		◆
◆	秋のコンサート	大島洋子(ソプラノ) 青山智英子(アルト) 黒田晋也(テノール) 大島幾雄(バリトン) (静岡出身の二期会会員による歌の夕べ)		◆
◆	冬のコンサート	桐朋学園オーケストラ		◆

## 会員だより

今井信子さんへのインタビュー、うらおもて

浜松医療センター副院長 金子満雄

どうして、僕なんか、こんな役がまわって来たんだろう。「あいつは浜響でアンダンテ浜松なんて云うのを編集して、ちょいちょい、インタビューをやっているらしい。音楽キチで、おしゃべりで、「脳と音楽の関係」などとへ理屈も云うらしい。」ということだったのか。

まあ、ピオラの名手に話を伺えるのは楽しいことだ。やってみましょう。

すこし、下調べをしたり、当日、今井さんの舞台練習の後で、一寸、小手調べに伺っ

たりして、大方、全貌が分って来た。彼女は最初、バイオリンからスタートして、アメリカでの音楽祭に出席した後、一念発起して、ピオラに転向されたらしい。その後の欧米コンクールでの華々しい活躍、そのうち、ロンドン交響楽団の偉大なる指揮者コーリン、デイビスから直接、声がかかって（彼女は天の声と表現した）ロンドンでソリストとして奏くことになったらしい。これが絶好の契機となって、今や、オランダに住み、ヨーロッパを中心に大活躍中と云う。青い目の旦那さんと二人の子供さんに囲まれて、今、幸せな絶頂とおみうけした。好きな音楽の傾向、数千万円の高価なピオラのこと、外国語の苦勞のことオーケストラでの練習風景など、聞きたいことがたくさんある中で、どれどれを引き出して会場の皆さんにご披露したら良いのか。

来る前、うちのカミさんからクギをさされた。「あなたは少し、しゃべりすぎるのが欠点だと云うことを思い出して！」。ううん、これに一番弱いんだ。

意外に、舞台に呼びあげられたのは、まだ、最初のバッハのチェロ組曲が済んだばかりの出だしの頃であった。この時間帯にグラグラと長目のインタビューなんかやると、音楽会のリズムを壊して、会全体を駄目にしてしまう。「これは簡にして要で行こう。」と直感的に思った。

何と何を話したか。見て頂いた通りである。とにかく、切り詰めて、すっきりと終わることのみを考えた。しかし、結果的には、僕らしくない舌足らずの不満だけが残った。自己採点、70点。

今井さんのピオラはさすがに、すばらしい音色で、そのような些事を悠々と押し流してくれ、音酔いの良い気分させてくれた。

### 浜松音楽友の会との出会い

静岡大学勤務 喜多尾道火児

それはY書店の奥の柱に小さく貼られたポスターを見つけたときだった。ヴィオラリサイタルや打楽器コンサートなど魅力的なプログラムを載せた四季のコンサートと云うものであった。コンサートと称するものに行ってからもうどれほど経ったのだろうか。レコード偏執、しかも室内楽のレコードにばかり夢中になっている自分にとってホンモノを聴くことは異例のことだが、ヴィオラの名に魅かれて早速四季のコンサートに申し込んだ。ところが定員が一杯のため空席待ちとのこと。ノンビリと待っていると、今年から会員に入れて頂きしかもヴィオラリサイタルが延期になって聴けるとのお知らせを受けた。3月28日東京行きを1日延ばして聴きに行く。

本当に心に響くりサイタルだった。音が極めてきれいなことにビックリすると共に、プログラムが進むにつれて感動は増すばかりだった。バッハのチェロ組曲はゆったりとしたチェロの音の方が良いとの多少の思惑もあったが、ヴィオラの軟かい音にだんだん酔っていく。プリテンの本邦初演とかのエレジーはちょっとおセンチな気分がヴォラの音にピッタリ。ストラヴィンスキーには室内楽は少ないが、初めて聴くエレジーの素敵なこと。この曲にこんなに繊細にして感情のこもった曲があったとは！いや演奏が凄いからだとか心の中で眩きはじめる。ヒンデミットにはヴィオラの曲が多いが、やはりソロの曲はヴィオラの美しい音がたっぷり聴けて何より。最後のシャコンヌもヴァイオリンの鋭い音の方が胸につきささるのではと思いつつも、ヴォラ独特のシヴィアな音に緊張度が増していく。こんなに身体の底から感激したりサイタルは初めての経験だった。ホールなんかで聴くよりもレコードの方が良いに決まっているとの偏見を今後修正しなければならぬ程の衝撃的な体験であった。とはいってもやはり今井信子さんには今回の独奏曲は無論のこと、バルトークやショスタコヴィッチのヴィオラ曲をレコードに吹き込んでもらいたいものです。自分の部屋で何度も何度も堪能できるから。

翌早朝東京に行き、会う人毎に今井さんのヴィオラソロを聴いて来たと話す。そのとき今井さんはヴィオラでは世界最高の音を出す人だと教えられた。その人のソロを聴けるなんて浜松はスundayと云うところだとうらやましがられ、ちょっと得意になったりもした。これは浜松音楽友の会の事務局の皆さん方の努力のおかげと感謝しています。これからも室内楽の良さ楽しさを四季の折々に満喫させて下さい。



1984年10月15日

東 敦子ソプラノリサイタル

おんがく大好き //

東陽中学1年 大沢素子

私は、小さい頃から、音楽が大好きです。音楽を聴いていると、心がそっと開くような気分になるからです。

四季のコンサートには、母と私と妹と三人で毎回聴きに行きます。このコンサートは、他のコンサートに比べると、小さい子供が多いのですが、聴き方は、だんだんよくなってきているように思います。

このコンサートで一番心に残っている演奏は、

○ [チェロと、ピアノの合奏] です。私は、部活で、シンセサイザーという楽器をやっています。私はチェロのパート専門でした。やっぱり楽器の音と、機械の音がちがうのが、はっきり分かりました。本ものはすばらしいです。

○ [吉原すみれの、打楽器] も、感激したコンサートの一つです。一人で、いろいろな打楽器を、とつてもすばらしく演奏します。その演奏は、リズムの変化がよく表現されていて、楽しめました。こんな音楽も聴いたのは、初めてでした。

来年は、黒沼ユリ子のバイオリンが、そしてオーケストラ！今からとても楽しみにしています。



## スタッフだより

### 私の接した演奏家の素顔

福田多恵子

幸いのこと名演奏家達のお世話をする機会を得に、接待係の仕事は、演奏家が最高のコンディションで演奏出来ることが使命だと思う。ではどのようにしたらよいのかと思うが、それぞれの性格的な異いや又演奏前の緊張感が漂う中でどのように対応すべきかが難しい。私が接した演奏家の中でも、はじめから、自分の気持ちを話してくれる気さくな人もいる。今井信子さんがその一人。自分自身の才能に気がついていないかのように、自由に、謙虚に生きている。彼女は、二児の母親であり、オランダ人である夫を持つ妻である。この家族は音楽一家と云う。しかし、御主人は実業家、信子さんの音楽をいかに理解していることを意味する。日本が好きで、マイホームは、和風家屋、タクミは日本から送ったもの、和服をお召しになり信子さんも和服を着ることが多い。この様に御主人が、信子さんに寄せられる愛情の中で、音楽と家庭を、素晴らしいハーモニーにして、世界で活躍している中年女性の話。こんなことを話している内に何か友達のような気がしてきた。新幹線のホームで、これからも仕事を持つ女性として頑張りましょうと握手。彼女のアドレスをメモにして渡してくれた。又世界的なソプラノ歌手東敦子先生は、英国王室フィリップ殿下と皇太子ご夫妻の前での演奏会の為に、ジローオペラ大賞の賞金は、ドレスをつくってもうなにもありませんと家計のやりくりを、語る気さくなお人柄。この様な人物が、演奏をこれからも無限のものにしていくのだろうと思う。

### トロイメライの思い出

松崎孝子

私が幼稚園の頃、(30年以上も前になりますが) いつもお昼寝の時間に流れる美しいメロディーがありました。そのあと何年たったでしょうか。ああ、この曲だったな、何という曲かな、そう思って知ったのがトロイメライでした。更にそのあと何年かたち、子供ができてお昼寝をし——母親になった私はそっとピアノでトロイメライを弾いてみては懐しく思い出してものでした。

子供達が成長するにつれ、時には生の音楽を聴かせたい、よりよい演奏に触れさせたい、そんな気持ちがありました。しかし家族連れでコンサートを聴きに行くのは経済的にもなかなか気軽に行けるものではありません。そんな時に浜松音楽友の会の話聴き、願ってもないすばらしいことだとうれしく思ったものでした。



初回コンサートでは親しみやすい会費だからでしょう。親子の姿が目につきこんなコンサートが欲しかった。と皆さんに喜んでいただいたものでした。しかし、中には隣席の子供のざわつきが気になる、そんな苦情もあり、安かろう悪かろうのコンサートにならぬよう皆で話しあったこともありました。すでに、6回目も数えるほどになり、聴衆としてのマナーが身につけてきたのでしょうか、そんな心配もなくなったような気がいたします。

先日友人の家でホームコンサートを聞くことができました。真夏の昼下がり、出演者達の好意に感謝しつつ、こちらは冷たい麦茶を飲みながら生の演奏を聴くというぜいたくなひとときを過ごすことができました。曲はトロイメライになり、ふと思ったことでした。大ホールでのコンサート、身近な場所でのサロンコンサート、ホームコンサート、いろいろなスタイルの中で子供達が心に残る美しいメロディーに出あってくれるといいな、と。





### 保育の部屋より

幼稚園教諭 山本君枝

この会の発足に際し、代表の佐藤さんから保育を依頼された時、子供が好きなのでつい二つ返事でお引き受けしてしまったものの、大切な命をお預かりする仕事、あれこれ迷わなかったとは言えませんでした。心配しながらも第一回目の演奏会の来るのが楽しみで、おもちゃ、ノート、クレヨン等の保育用品を準備して、「どんな子が来るのかしら」と、内心浮き浮きしながらその日を迎えました。ところがそれはそれは大変な初日でした。六ヶ月の赤ちゃんから小学校四年生位までの、子供達三十人余りが控え室に名札を付けてやって来ました。三才以上の子供は初めて見る環境にしばらく目を見張っていましたが、すぐ馴れ遊び出しました。ところが三才未満の子供の中には、仲間に入れずステージの方に走り出したり、おもらしをしてしまったり、びっくりして泣き出す子が、まあその……てんやわんやのさわぎになりました。私と短大生だけではとても回り切らず、スタッフの方々の応援をいただきやっと落ちつきました。お母様に子供さんをお返しした時は、お部屋中ポップコーンがはぜくったような有様でした。そして体中の力が抜けてしまいました。でもその疲労は、充実感に満ちて、若いエネルギーが盛り上がり始めて来るようでした。やがて、回を重ねるごとにかわいい子供達もすっかり環境に慣れて、初日に泣いた子も人が変わったみたいに、笑顔を見せてくれるようになり友達と仲よく遊べるようになりました。保育室も今では会議室に移り、広々とした中でボールを転がしたり、積木でお家を造ったり、自動車競争をしたり、まるでミニチュアランドのように明るく楽しい園になりました。一人一人の名前と顔がしっかり浮かび上がって来て、またあの子来てくれるかしら……なんて期待してしまう私です。年間たった四回だけなので、ちょっぴり寂しいですが、再会するたびに成長が強く感じられてとても楽しみです。「袖すり合うも多少の縁」日頃携わっている子供達とは別なものを、この子供達から教えられほんとうに幸せです。この小さなふれあいを大切に、一人でも多くのかわいい天使達と巡り逢いたいと思っています。

が控え室に名札を付けてやって来ました。三才以上の子供は初めて見る環境にしばらく目を見張っていましたが、すぐ馴れ遊び出しました。ところが三才未満の子供の中には、仲間に入れずステージの方に走り出したり、おもらしをしてしまったり、びっくりして泣き出す子が、まあその……てんやわんやのさわぎになりました。私と短大生だけではとても回り切らず、スタッフの方々の応援をいただきやっと落ちつきました。お母様に子供さんをお返しした時は、お部屋中ポップコーンがはぜくったような有様でした。そして体中の力が抜けてしまいました。でもその疲労は、充実感に満ちて、若いエネルギーが盛り上がり始めて来るようでした。やがて、回を重ねるごとにかわいい子供達もすっかり環境に慣れて、初日に泣いた子も人が変わったみたいに、笑顔を見せてくれるようになり友達と仲よく遊べるようになりました。保育室も今では会議室に移り、広々とした中でボールを転がしたり、積木でお家を造ったり、自動車競争をしたり、まるでミニチュアランドのように明るく楽しい園になりました。一人一人の名前と顔がしっかり浮かび上がって来て、またあの子来てくれるかしら……なんて期待してしまう私です。年間たった四回だけなので、ちょっぴり寂しいですが、再会するたびに成長が強く感じられてとても楽しみです。「袖すり合うも多少の縁」日頃携わっている子供達とは別なものを、この子供達から教えられほんとうに幸せです。この小さなふれあいを大切に、一人でも多くのかわいい天使達と巡り逢いたいと思っています。

## お知らせとお願い

会員日より 皆様のご寄稿をお待ちしております。400字詰原稿用紙2枚以内でお願いいたします。

会員登録 は年度が変わっても、そのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の10月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。

名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の 住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。

### 秋のコンサート



ミシェル・ペロフ  
ピアノリサイタル

10月25日(金) PM 7:00

#### PROGRAM

J.S.バッハの主題による幻想曲とフーガ ト短調  
「泣き、悲しみ、悩み、おののき」による変奏曲  
ハンガリー民謡による即興曲 Op.20  
舞踊組曲

リスト  
リスト  
バルトーク  
バルトーク

ソナタ第17番二短調 Op.31「テンペスト」  
ソナタ第14番嬰ハ短調 Op.27「月光」

ベートーヴェン  
ベートーヴェン

### 冬のコンサート

フルート 全昌国  
ヴァイオリン 漆原啓子  
チェロ 山崎伸子  
東京カンマーアカデミー

#### 室内楽の夕べ

#### PROGRAM

組曲 第2番 ロ短調  
チェロ協奏曲 イ長調  
フルート四重奏曲 第1番 二長調  
ブランデンブルグ協奏曲 第5番 二長調

12月12日(木) PM 6:30

J.S. バ ッ ハ  
C.P.E.バ ッ ハ  
W.A. モーツアルト  
J.S. バ ッ ハ